

会 議 録

会 議 の 名 称	平成19年度第3回 小金井市地下水保全会議
事 務 局	環境部環境政策課環境係
開 催 日 時	平成20年2月13日(水) 午前10:00~12:00
開 催 場 所	市役所暫定第八会議室
出 席 者	別紙のとおり
傍 聴 の 可 否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍 聴 者 数	3名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員自己紹介 3 事務局紹介 4 会長互選 5 副会長互選 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回の会議録の確認について(資料1) (2) 蛇の目ミシン跡地について(資料2) (3) ボーリング調査データについて(資料3) (4) その他 7 次回の地下水保全会議の日程について 8 その他
会 議 結 果	別紙のとおり
発言内容・発言者名 (主な発言要旨等)	別紙のとおり
提 出 資 料	資料は、情報公開コーナー、図書館、議会図書室にある議事録に添付してあります。
そ の 他	

平成19年度第3回 小金井市地下水保全会議

議事録

日時：平成20年2月13日（水）10:00～12:00

会場：市役所暫定第八会議室

■ 出席者

(委員)	小倉 紀雄 会長	山田 啓一 副会長
	土屋 十圀 委員	風間 ふたば 委員 宮川 正孝 委員
(事務局)	環境部 深澤部長	環境政策課 石原課長補佐
	環境係 鉄谷係長	環境係 立川主任 環境係 板本
(傍聴者)	3名	

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 委員自己紹介
- 3 事務局紹介
- 4 会長互選
- 5 副会長互選
- 6 議題
 - (1) 前回の会議録について(資料1)
 - (2) 蛇の目ミシン跡地について(資料2)
 - (3) ボーリング調査データについて(資料3)
 - (4) その他
- 7 次回の地下水保全会議の日程について
- 8 その他

■ 審議経過(議事録)

1 開会

石原 課長補佐： それでは開会させていただきます。

本日より、第2期目に入りましたので、会長が選出されるまで司会進行をさせていただきます。環境政策課長補佐の石原です。よろしくお願いいたします。

まず、委員の方に異動がありましたので、新しい委員の紹介をさせていただきます。関係行政機関の池田茂委員に代わりまして、東京都環境局多摩環境事務所環境改善課長の宮川正孝委員が就任されましたのでよろしくお願いいたします。

宮川 委員： 宮川です。よろしくお願いいたします。

2 委員自己紹介

石原 課長補佐： では、次に委員自己紹介にうつります。

(各委員が順に自己紹介)

石原 課長補佐： どうもありがとうございました。

3 事務局紹介

石原 課長補佐： 続きまして、事務局の紹介をいたします。

(順に事務局職員を紹介)

4 会長互選

石原 課長補佐： それでは、会長互選にうつります。

委員の皆様からご意見を伺いたいと思いますが、ありますでしょうか。

土 屋 委 員： 小倉先生にお願いしたいと思いますが。

石原 課長補佐： よろしいでしょうか。

小 倉 委 員： はい、わかりました。

全 委 員： よろしくお願ひします。

石原 課長補佐： それでは、引き続きお願いいたします。

5 副会長互選

小 倉 会 長： 僭越でございますが、よろしくお願ひいたします。

では、副会長互選ということですが、ご推薦いただけますでしょうか。

土 屋 委 員： 地元でありますので、山田先生にお願いしたいと思いますが。

小 倉 会 長： いかがでしょうか。

全 委 員： よろしくお願ひします。

山 田 副会長： はい、わかりました。

小 倉 会 長： それでは、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

6 議題

(1) 前回の会議録の確認について

小 倉 会 長： では、議題に入ります。

前回の議事録についてですが、今回は長いのでこの場で確認しなくてもよろしいのでしょうか。

石原 課長補佐： はい。何かございましたら来週末までにご連絡いただければと思います。

小 倉 会 長： そうですか。では、訂正等がありましたら事務局のほうに連絡をお願いします。

(2) 蛇の目ミシン跡地について

小 倉 会 長： 次の議題ですが、事務局から説明をお願いします。

深 澤 部 長： 資料2に基づき経過報告及び説明を行った。(説明内容省略)

小 倉 会 長： ありがとうございました。

経過等はお解かりいただけたと思います。蛇の目ミシン跡地に、ごみ処理施設を作るとすると、ごみピットに相当する部分が、地下に最大15メートルくらい入る可能性があるということで、その場合に地下水の流れに影響があるかどうかをご判断いただきたいということです。

山田 副会長： 涵養域の話ですが、平成元年のレポートと東京都土木技術センターの最近のものでは、少し違うということですが、中央線から北側の評価ですね。このあたりは仙川に沿って三鷹方面に流れるということがあると思います。蛇の目ミシン跡地のエリアだと、いずれにしても該当するのではないかと思います。

土屋 委員： そうですね。平成元年の市のデータは、中央線の北側は仙川に向かって低くなっていて、東京都土木技術センターがやったものは、3月の時点なので一番水位の低い時のものですね。これも仙川の方に向かっていているような気がするのですが、南側の、はけの森美術館の湧水のほうに影響がまったく無いということにはならないと感じました。

以前、この湧水の調査をしていた時に、そこから中央線までの北西の方向に2件の井戸調査を同時にやらせていただいたことがありまして、だいたい同じような値が出てきていました。ですから、北西の方向からすると、影響がまったく無いわけではないと思います。ただ季節によって、中央線を越えていくとむこうに流れが変わったりすることが推定されています。渇水期ですと仙川のほうへ、逆に水位が高くなってくると、又こちらのほうに向かったりするということがわかっているので、まったく影響が無いわけではないと思うのです。

山田 副会長： 東京都土木技術センターのほうは、主として礫層の下端面の形状を中心にやっているのですが、関係ないわけではないのですが、地下水はもっと上にありますので、そういう点ではとても微妙なゾーンですけど、全体的には大事な所だと思います。

深澤 部長： 図6で見たとき、季節によって変動があるということですか。

土屋 委員： この場合、平成15年から18年と書いてあるので、その平均をとったものなのかどうかはわかりませんが、なんともいえませんが。

深澤 部長： さきほどのお話では、渇水期ならば上に流れるということですね。

土屋 委員： 中央線の北側は特に仙川の方に流れて、はけの方には、北西から向かっているという傾向が推測されているということです。地下水は不透水層にのっている礫層に涵養されていますから、それが季節によって上下しますね。ですからそのような傾向があるのではないかと推測されているのです。

山田 副会長： この図6の等高線は、地下水面のものではないですよ。だから、あくまでも、東京都土木技術センターのほうは、礫層の基底の凹凸に従って流れを考えているので、地下水面との関係は必ずしも明確ではないのですが、これはひとつの考え方であり、それだけではないと思います。

まだ未発表なのですが、礫層の上端面の起伏でやると、もう少し仙川よりのところで分かれている感じがします。

ただ、水収支的に言うと、平成元年の図のようになるのではないかと思います。

小倉会長： 今のお話ですと、季節のデータがないのではっきりわからないけれど、水位が低い時は北東方向、仙川の方に向かうけれど、水位が高くなると、逆にはけの方に流れる可能性があると考えられるということですね。

山田副会長： いずれにしても、中央線の南ですね。

小倉会長： はい。

山田副会長： 基本的にはこちらに流れているので、中央線を越して仙川の方へは行かないと思います。

小倉会長： そうですね。だから、蛇の目ミシン跡地は中央線の南側だから、影響が無いわけではないということですね。5メートルから15メートルだと、かなり深いですし。まあ一般的な話ですが。かなり大きい幅になるのですか。

土屋委員： このごみピットの構造というのは、コンクリートで耐久性のあるもので、当然、中から漏れだしてくることはあり得ないのですね。

深澤部長： はい。

土屋委員： 規模として、深さはわかりましたが、幅などはどのくらいでしょうか。

深澤部長： 容量の問題があるので、決まりはありません。国分寺市と小金井市が共同でやりますので1日だいたい100トンくらいで、その分を安定的に処理するために一定のごみを溜めて攪拌しておく必要があります。通常は1週間から2週間分くらいは入るような容量です。

山田副会長： そうすると、だいたいどのくらいの大きさでしょうか。

深澤部長： 今、担当に確認します。

小倉会長： 地下水保全会議の意見としては、地下にそのようなピットが5メートルから15メートルくらい入るのであれば、地下水位が高いときには影響があるのではないかということですね。

深澤部長： まとめていただきますと、地下水位の低いときには北東方向に流れて、高いときには、美術の森の方に流れるということですね。

小倉会長： そうですね、だいたいそのようなご意見だったと思いますが。

土屋委員： 位置としては、ちょうど真北ですね。

小倉会長： そうですね、JRの真北ですからね。そういうこともありますよね。

土屋委員： ええ、あるか、むこうに行くのか、両方あるような、きわどいところですね。

風間委員： 土木技術センターのかたは、ここにくぼ地があるのであまり影響が無いのではないかという見方をされているということですか。

山田副会長： それは、礫層の下端面の方ですね。

風間委員： ええ、一番下の、ようするに固い盤のところの形から見るとくぼ地があるので、この場所に建物が建っても影響が無いのではないかということでしょうか。

山田副会長： たぶん、水位がずっと下がると、その下のカーブの境界がきいてくると思うのですが、高いときはそのカーブがどの程度影響があるかというのは、色々議論があると思うのですが。

小倉会長： そうですね。その土木技術センターのデータは、直接地下水を測っているわけではないので、その結果は、必ずしも、平成元年の小金井市のデータ結果と

比較することはできないのですが、小金井市の過去のデータから言うと、さきほど申し上げたような結論になるのだらうと思います。

深澤部長： はい。ありがとうございます。

このことについては、平成20年第1回定例会の中の、ごみ処理施設建設等調査特別委員会のほうに報告するという形になります。内容については、まとめたものを小倉会長に確認をしていただくということによろしいでしょうか。

小倉会長： はい。では、そういうことによろしいでしょうか。

全委員： はい。

小倉会長： わかりました。

土屋委員： ついでにお聞きしたいのですが、現在ある二枚橋の建物にはごみピットがあるのですか。

深澤部長： はい、あります。

土屋委員： 深さはどのくらいですか。

深澤部長： 2か所にあるのですが、あの場所は段丘になっていますので、南側については10メートルくらいで、北側は5メートルくらいです。

小倉会長： かなり深いですね。

土屋委員： そうですね。

小倉会長： そちらの方は、地下水への影響は少ないのですよね。

深澤部長： はい、野川の南側になりますので、多摩川のほうになります。地下3メートルくらいで水が出るということを聞いています。

土屋委員： ええ、そうでしょうね。地下水は高いですね。

小倉会長： 野川を挟んで南と北なので、野川への湧水、地下水とは少し違いますね。

山田副会長： 蛇の目ミシン跡地は市有地になっているのですか。

深澤部長： 蛇の目ミシン跡地は、道路を挟んで東西に分かれていまして、東側の一部を市が取得いたしました。1万7百平方メートルになります。残りの部分の約1万平方メートルは、都が取得しまして、都民ハイムという住宅になっています。道路を挟んだ西側については、約2万平方メートルくらいですが、分譲マンションが建っています。

小金井市でごみ処理施設をつくるために、焼却施設の場合は8千平方メートル以上、非焼却施設の場合は6千平方メートル以上の土地が必要になるということで、今、市民検討委員会で選考していただいているところですが、その関係上、市のほうから提示している、蛇の目ミシン跡地と二枚橋焼却場跡地というのは1万平方メートルを超えている土地になっています。

さきほどの問合せのごみピットの大きさですが、現在の二枚橋焼却場で、幅南北が15メートル、東西が25メートルとなっています。

山田副会長： 深さはさきほどのとおりですね。

深澤部長： はい、南側10メートル、北側5メートルです。

小倉会長： かなり大きいですね。

土屋委員： ええ、そうですね。

深澤部長： 建物の構造によってだいぶ違ってくるとは思います。

小倉 会長： ええ、そうですね。

蛇の目ミシン跡地は、地下水への影響が考えられますね。

深澤 部長： 今後は、6月までに市民検討委員会の皆さんに場所を選考していただき、それを元に市のほうで来年の2月までに建設場所を決定し、それから処理方式をどうするのか、どういうものを作っていくのかなどの計画を作っていくこととなります。市民説明会資料の最終ページにありますスケジュールです。最終的に平成29年4月に新施設の稼動を予定していますが、それまでに、又地下水の問題などもあると思いますので、必要に応じて地下水保全会議のご意見をいただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

小倉 会長： はい、わかりました。

今日は、さきほどまとめたような意見ということにさせていただきたいと思っています。

深澤 部長： ありがとうございました。

(3) ボーリング調査データについて

小倉 会長： 次の議題に入ります。

説明をお願いします。

石原 課長補佐： 資料3について、説明を行った。

小倉 会長： ありがとうございます。

貫井北町の中央大学附属高校のところですね。予定だと、深さが6メートルくらいですか。この平面図によると杭をうつのですか。

石原 課長補佐： 直接基礎ということです。

立川 主任： 前回お話したように、コンクリートの壁を入れて、そこに空気を通して、教室に冷たい空気を入れる、といった構造の図になります。それが、6.3メートルはいるということです。

山田 副会長： ボックスみたいなものですね。

立川 主任： はい、そうです。基礎杭みたいなつくりで、そこにコンクリートを入れると空気が冷たくなるというもので、そこに風を通して、教室にその空気を入れるということです。

土屋 委員： そうしますと、この5階の建物に対する杭はないのですね。

立川 主任： はい。地下にはいる深さは6.3メートルで、それで建てられるということです。

小倉 会長： ボーリング柱状図を見ると、この時の地下水位は7～8メートルくらいですね。ですから、6メートルよりは下にあるということになります。

この、建物部分の雨は浸透しなくなりますが、浸透ますは当然つけますね、小金井の場合は。

山田 副会長： これ、地下水位がもう少し上がると、浮力がかかって大丈夫でしょうか。

石原 課長補佐： グラウンドの浸透性もはかるということにもなっています。

小倉 会長： 水位は、8～9月が比較的高い時でしょうか。

山田 副会長： いえ、そうでもないですね。11月くらいですね。

土屋 委員：　そうです、秋ですね。台風が過ぎたくらいでしょうか。

小倉 会長：　では、地下水位はもっと高くなる可能性があるのですね。

山田 副会長：　かえって浮き上がらないのかなと思います。

小倉 会長：　なるほど。

このデータを見て、いかがでしょうか。

宅地開発審査会では同意をしたということですが、この地下水保全会議として、何かご意見がありましたらお願いします。

山田 副会長：　場所としては、だいぶ北の方なので崖線には影響はないと思いますが。

小倉 会長：　そうですね。北側なので、中央線を越えてこちらの崖線のほうには、直接影響はあまり無い地域でしょうか。流れとしては、かなり東の方に行くのでしょうか。

土屋 委員：　確かにそうですね。北西の方向といってもかなり離れてはいますね。むしろ、仙川の上流などへの影響が大きいと思います。

まあ、浸透施設を十分に作っていただくということですね。

小倉 会長：　そうですね。建物とグラウンドで雨水浸透をはかるということですので、雨を十分に涵養していただくということと、ボーリングデータを見る限り、地下水位より高めのところまでなので、影響はないという感じですが、逆に地下水位が上がった時に、建物を浮き上がらせる浮力が出る可能性はないかという心配がありました。

一番水位が高いときには、6メートルくらいになるのでしょうか。

山田 副会長：　そうですね。1991年のときには、高いところで3メートルくらいあがりましたね。ですから、近づく可能性はあります。

その時は、水がたくさんありますから、阻害するというよりは、構造物に対してどうかということですね。

小倉 会長：　地下水そのものよりむしろ、構造物への影響があるかもしれないということですね。

ですから、崖線よりはかなり北側であって、野川などへの影響や地下水への影響は少ないのではないかとということで、むしろあるのであれば、仙川のほうではないかということですね。

他に何かご意見はございますか。無いようでしたら次に進みたいと思います。

(4) その他

小倉 会長：　その他ということで、事務局からお願いします。

石原 課長補佐：　前回のお話の中ででました、市で行っている井戸水の水質調査の結果をお配りしました。

小倉 会長：　水質監視測定報告書というものです。簡単に説明をお願いします。

石原 課長補佐：　水質監視測定報告書について、説明を行った。(説明内容省略)

小倉 会長：　これは、市民の方々が測定している井戸とは違うということですね。

石原 課長補佐：　はい、そうです。

山田 副会長：　小金井市の環境報告書には掲載しているのですか。

石原 課長補佐： はい。

小 倉 会 長： テトラクロロエチレンが超過している井戸がありますが、何か起原はあるのですか。昔はクリーニングなどと言っていましたが、最近はほとんど使わなくなっていますよね。

風 間 委 員： 硝酸も高めですね。

石原 課長補佐： 原因の究明までは至っていません。

深 澤 部 長： 小平の方から来ているということで、そちらのほうでも調査をしているということです。

山 田 副会長： 湧水も小金井は硝酸濃度が高いですね。国分寺、三鷹は低いのですが。

土 屋 委 員： 発生源は何でしょうね。

小 倉 会 長： そうですね。下水の浸透もほとんどなくなりましたし、農地関係でしょうか。でもわかりませんね。

風 間 委 員： これ以外の項目は測っていないのですね。

立 川 主 任： 今年度から、観測地点と項目もいくつか増やしています。

土 屋 委 員： それから、水温が低いですね。何でこんなに低いのでしょうか。14～15度くらいはあるはずですが。

山 田 副会長： たぶん溜まり水ではないでしょうか。採取するのは、ちゃんとつかった水ですか。

立 川 主 任： はい。どこの地点が低いのでしょうか。湧水が1箇所あるのですが。

土 屋 委 員： 湧水でも、2月とはいえこんなに低くはないですよ。

山 田 副会長： たぶん、地温に影響された水を採ってしまっているのではないのでしょうか。少し汲み上げれば、変わってくるはずですが。

小 倉 会 長： そうですね。最初は低いですが、汲み上げて水温が一定になってから計るとというのが原則ですね。

土 屋 委 員： 気温の影響をうけている表層部の、最初の水だけ流してからですね。

山 田 副会長： 特に普段使っていない井戸はそうにしないとだめですね。

深 澤 部 長： 今年は確認してやるようにします。

立 川 主 任： はい。

小 倉 会 長： これはどこかコンサルに頼んでいるのですか。

立 川 主 任： はい。

深 澤 部 長： 環境のほうの専門のところです。

小 倉 会 長： まあ、慣れているとは思いますが、確認をしていただきたいと思います。

深 澤 部 長： はい、わかりました。

小 倉 会 長： テトラクロロエチレンは揮発性があるので、流していると揮発してしまうのでというおそれがありますね。

土 屋 委 員： なるほど、迅速にやっているわけですね。

立 川 主 任： 管に溜まっているものが持ち上がって計るとこれくらいの温度になってしまうということですね。

山 田 副会長： はい、溜まっている水だと地温の影響をうけますから、冷やされてしまうのですね。

宮川 委員： 水温がほとんど一定の井戸もあるので、井戸の構造や形なども関係あるのだと思います。

山田 副会長： あとは、日常的に使っているものと、そうでないものでも違いますね。
それから、先ほどのお話ででした、市民調査で地下水位を測っているデータは、どのようなかたちで公開するのでしょうか。

石原 課長補佐： 環境報告書のほうに1年分まとまったものを掲載していきまして、あと、第二庁舎の玄関のところに、環境市民会議のほうで毎回の調査結果を掲示していきま
す。環境市民会議のホームページのほうにも掲載されているようです。

山田 副会長： そうですか。水位と水質があるので、できれば一緒に見られるようになって
いるといいかなと思います。

石原 課長補佐： はい。

風間 委員： さきほどの、蛇の目ミシン跡地についての話の時にも思ったのですが、市民
が観測している井戸の水位データで、季節による変動はでてきていないのでし
ょうか。もしでてきているのなら、それも蛇の目ミシン跡地で影響が心配され
るといふひとつの材料になるのではないのでしょうか。

石原 課長補佐： さきほどの説明で省略してしまいましたが、環境市民会議のほうで計測して
いただいている井戸のなかで、比較的蛇の目ミシン跡地に近いところが13番
の井戸になりまして、そちらのデータを参考に添付させていただきました。

風間 委員： これを見ますと、確かに3月が少し低いですね。
さきほど先生方がおっしゃったように、秋にはわずかだけ水が出てくると
いうことですね。これもやはりさきほどのお話を裏付けていますね。

小倉 会長： ええ、そうですね。

風間 委員： 秋には、はけの方に流れてきているのですね。

土屋 委員： そうですね。地下水源が高くなるから、はけ側に流れていきます。

風間 委員： 冬になると低くなるので反対側へいくのですね。ですから、土木技術センタ
ーのデータは3月のものですから、時季が変われば違ってくるかもしれないで
すね。

小倉 会長： そうですね。

では、さきほどの蛇の目ミシン跡地についてのコメントに環境市民会議が観
測している井戸の水位データを考慮しても、水位が高いときには影響が考えら
れるということを加えていただきたいと思います。

他には何かありますか。

石原 課長補佐： 前回、ご審議いただいたところでお答えできなかった点がいくつかありまし
たので、ご報告させていただきたいと思います。

まず、本町1丁目のマンション建設のボーリングデータについてご審議いた
だきましたところ、崖線に近い場所なので、地下水への配慮ということで事業
者へ伝えていただきたいということ、また、工事が着工されていたので、
どのような形で配慮されたかを確認しましたところ、地下水影響工事実施届出
書で届け出たとおりに、ベントナイト液を使用したという回答でした。

次に、水道の漏水率についてですが、小金井市の漏水率というのは発表して

いないということで東京都全体の数字になりますが、平成17年度で4.2パーセントということです。

あと、前回西庁舎のほうで会議を行いました、そちらのお手洗いの水のご指摘がございましたが、古いタイプのお手洗いなので、常にタンクに水を送っていて、いっぱいになると勝手に流れ出るタイプだということでした。

それから、平成20年度の環境フォーラムを、11月15、16日に東京学芸大学で開催いたしますが、来年度の市の市制施行50周年記念にあわせまして、雨水をテーマに開催する予定になっています。内容については、庁内の検討委員会、また環境市民会議のほうでも企画に参加していただいておりますので、現在、話を進めているところです。

小倉会長： はい、ありがとうございました。

他には何かありますでしょうか。

傍聴者： ごみピットのボリュームのことなのですが、そのボリュームを想定した場合、小金井市内で、地下水への影響がほとんど無いという場所は、どんなところだとお考えでしょうか。また、ありますでしょうか。立川面だったら、多少はあるかもしれませんが。

なぜ、こんなことを申し上げるかと言いますと、ごみ焼却場の場所の選定が極めて政治的で、政治的に見て非常に微妙なことであります。ですから、ある候補地についてそこは影響があるという、ほら見ろとなりかねないくらいに微妙なことでありまして、そういう意味で客観的に見た場合に、このごみピットのボリュームを想定したときに、ほとんど影響がないというところがあるのでしょうか。

小倉会長： むずかしいですね。いかがでしょうか。

風間委員： ええ、無いのではないのでしょうか。

私は、この地域については門外漢ですが、今日のデータを見せていただいても、私が知っている山梨県のほうの地下水の雰囲気とは全然違って、こちらは涵養域も狭いですし、少しの影響が非常にきくという感じがします。だから、そういうことをいうと、結局どこを守るかということを考えて建設しなくてはいけないのではないかと思うのです。ですから、たとえば今回の蛇の目ミシン跡地というのは、野川というのがひとつの象徴になっていますし、その崖線の湧き水に影響がでると困るというのは、市民の皆さんが大事に思っている場所、特に大事に思っている場所だからということかと思うのですが、やはりそこと、ごみの処理をするということの便利性と、結局はトレードオフをしなくてはいけないので、それで、影響があることは絶対あると思うけれど、その場所の影響の出方というのが、そのまわりの方々から見てもまあ、ある意味で我慢できる、というとおかしいですが、他に比べてまだましかなという所を選ぶしかないのかなという気がしましたけれども、いかがなのでしょう。

山田副会長： 今のお話に関連して、優先順位というのが色々な立場であると思いますが、小金井の四つの湧水の涵養域というのは、北のほうにはあまり延びていないのです。国分寺などはもう少し北のほうに延びていて、三鷹のほうもわりと深

いのですが、小金井の場合はとても浅いので、特に中央線から南側というのは、デリケートゾーンであって、その点で言うと、蛇の目ミシン跡地はキーポイントになっていると思うので、何とかしてほしいという気がします。では、他に何がいいのかというところは、又別に考えなければいけないのですが、ここがそういう地域に当たるということですね。

風間委員： はい。デリケートゾーンというのは、とても大きなキーワードではないかと思えます。特に中央線から南側というのは気をつけなければと思えますね。

山田副会長： そうですね。地下水の面から考えれば、中央線と崖線に挟まれたところは特に大事なところになるので、そこは何とかしてほしいと思うのです。

土屋委員： あの、さきほどの議論の中で、二枚橋焼却場の現状の施設も候補地になっているということでしたよね。候補地ということは、現状を改修して又やるということなのか、どうなのかよくわからなかったのですが。

深澤部長： はい。二枚橋焼却場は、小金井市と調布市、府中市の3市で行っていたところで、市域も3市にまたがっています。今まではこの3市でやっていましたが、今度は国分寺市とやるという形になりますので、跡地利用については、調布市、府中市と調整しながら行うということになります。

小倉会長： そうですね。調布市は三鷹市とやるということですよ。

深澤部長： はい。調布市は、三鷹市とふじみ衛生組合という組合を作ろうということで、現在は、多摩ニュータウン環境組合で処理をしています。府中市はもともと二つ持っていて、多摩川衛生組合というところでやっています。

風間委員： では、そうすると二枚橋焼却場の跡地はどこも使わないことになるのですか。

深澤部長： 小金井市のごみ処理場の候補地のひとつとなっていますので、今後、検討委員会のほうでどのように議論されるか、また、小金井市も調布市、府中市と跡地利用をどうするか協議していくということ、並行してやっていくことになります。

土屋委員： まあ、優先順位もさることながら、候補地であるから、現状であれば、ある意味では今の状態で形になるのかなと、私は感じましたが。崖線で立川面のほうだったら、むしろ多摩川のほうに地下水が動いているので、野川にも湧水にも影響は無いと思います。

小倉会長： 地下水への影響ということで考えると、そういうことになってしまうのかなということですね。小金井市にとって重要な崖線沿いの湧水、地下水への影響を考えると当然そう考えられるのですが、そう簡単にいく問題ではないですね。

深澤部長： はい。そういう意見があったということで報告はさせていただきます。

小倉会長： はい、わかりました。

ほかには何かございますか。

山田副会長： ひとつよろしいですか。

さきほど、滄浪泉園のところのお宅の話がありましたが、確かそちらのほうに、以前に掘った井戸があったのですが。

深澤部長： はい、あります。そちらは観測井戸として使っていこうと思っています。

山田副会長： そうですか。ではよろしくお願いします。

小倉会長： はい。

宮川委員のほうからは何かございますか。

宮川委員： さきほど、調布市の新しいごみ処理工場の話がありましたが、私は去年の3月までアセスメントをやっていたので、ふじみ衛生組合のほうも少し係っていきまして、事前指導のときに地下水への配慮ということは申ししていました。現在はちょうどアセスメントをやっている最中で、その中の評価でどう係るかは確認していませんが、小金井市でも、今日の資料の中のスケジュールを見ますと、平成23年からアセスメントとあります。当然、東京都の環境アセスメントの条例の対象となってくると思いますので、今日、議論されたような話も、地下水の部分で予測評価をしていただくようになるかと思えます。逆に、その前に色々と議論していただければ、アセスメントに掛かるときもスムーズに進むのではないかと思います。

地下水の流れの部分に係る最近の例としては、外環道路の建設で、大泉のところに貴重な湧水がありまして議論になりました。

小倉会長： そうですね、確か項目にありましたね。

ありがとうございました。

7 次回の地下水保全会議の日程について

小倉会長： それでは、次回の会議の日程ということですが、およそいつ頃になりますか。

石原課長補佐： はい、5月ごろで予定したいと思いますが。

小倉会長： 今度は平成20年度の第1回ということになりますね。

石原課長補佐： はい、そうです。

小倉会長： 皆さん水曜日が都合よろしいようですが。時間は午前中ですね。21日はどうでしょう。よろしいですか。

石原課長補佐： では、また事前に調整いたしますが、5月21日の水曜日の予定でお願いします。

小倉会長： はい、わかりました。

8 その他

小倉会長： 次のその他ですが、何かございますか。

事務局のほうからは何かありますか。

ないようですので、本日の地下水保全会議は終了いたします。